

2012年度事業報告書

(2012年1月1日～12月31日)

法人の名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed. ベンチャー

1 事業の成果

2012年度の事業の成果を語る前に、2012年の社会状況の中での本法人の活動の位置について整理しなければならない。2月の総会が終わり、本格的に2012年度の活動に入っていこうとする3月、東日本大震災の被災地は発災後1年を迎え、メディアはこの「1年」を声高に報道していた。2011年度から震災支援活動をはじめ、2012年度も頻度は減ったが継続的に被災地に向かっていた当法人の震災支援のスタッフは、現地の状況と、報道される「1年」の乖離に違和感を覚えざるを得なかった。さらには、この「1年」が終わったとたん、まるで震災などなかったかのように報道も減り、4月にはボランティアの支援活動に対する東北道の無料通行措置がなくなっていた。被災地以外の日本は、「1年」を区切りにする事で、震災前の日常を早く取り戻そうとしているかのようであった。その影響は、被災地にも及び、学校統廃合が前倒しで行われる事が決まり、福島第一原発で未だ自分の「地域」がどうなるかもわからない人々が大勢いる中で、大飯原発の再稼働が決定していった。

このような社会状況の中で、当法人の2012年度の活動は、形態としては前年度を踏襲するようになって、活動の出発点を改めて意識しながらの活動となったと言える。元をたどれば、外国人青少年の当事者団体「すたんどばいみー」の支援から出発した当法人の活動は、社会の問題を、問題を抱えている者に解決を押しつけるのではなく、問題を抱えさせている社会状況を、自らも当事者として共に考え変革していくことを目指してきていた。震災前に戻ろうとする社会の動きは、外国人の子ども達の問題と同じように、復興を被災地と被災した人々にその責任を押しつけることに他ならない。この視点から、当法人はこの夏、二つの活動に関わった。一つは、7月29日の「脱原発・国会包囲網」に参加したこと、そしてもう一つは、「小友中学校・すたんどばいみー・下福田中学校交流会」を支援したことである(交流会の報告については以下の震災支援活動の報告を参照)。「弱い立場の子ども達」が未来を生きる力をつけるための「教育支援」を謳うNPO法人として、時々の社会状況に対する立場を、それまでよりも明確に提示することが必要となったと言える。呼応するかのように、例えば理論学習会では大阪府教育基本条例案の学習会を急遽行い、変化する社会状況を冷静に見つめるための学習が行われたりした。

2012年度、諸々の活動が終わり、全体としては参加者、対象者の実績は1976人、これは前年度より増えてきている。正会員も前年度より7人増加し111人となった。これは、現在の社会の中で支援が必要と考える人がいること、そして社会について学習し考え、活動に関わりたいという人々が増えていることの現れと言える。12月には神奈川新聞より神奈川地域社会賞を頂くなど、これまでの活動の実績が認められてきているが、これに甘んじることなく、より多くの人々の力を集めて、社会の問題にはっきりとした立場を示しながら向き合う法人として活動していかなければならない。

2 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 学校支援事業

ア 教師・保護者支援部

①理論学習会

・内 容 今現在、学校で起こっている問題や学校を取り巻く社会、これから子どもたちが進んでいく社会の状況など、学校に関わって考えておく必要があるテーマを取り上げて、月1回の学習会を行った。2012年度は、とりわけ大和市のNPO法人として外国人について考える学習会を「拡大理論学習会」として別枠で設け、教員だけでなく広く一般市民向けに開催した。

1月 「事例研究—中学校生徒指導」

2月 「教育講演会事前学習会—土井隆義『キャラ化する/される子どもたち』『友達地獄』『人間失格?』を読む」

4月 「学級集団分析 調査方法について」「データ入力作業」(東京理科大学・清水睦美氏)

5月 「子どものからだと学校生活」(日本体育大学・野井真吾氏)

6月 「学級集団分析報告」(東京理科大学・清水睦美氏)

7月 「事例研究—対応に悩む児童の対応」

8月 「大阪府教育基本条例案学習会」

9月 「中学生のメディア利用と学校生活」(帝京大学・大多和直樹氏)

10月 「渡辺雅子『納得の構造』を読む」

11月 「思考と表現法の教育比較—米・仏から見た日本」(名古屋大学・渡辺雅子氏)

12月 「事例研究—母親・家庭への支援」

<拡大理論学習会>

「『生きづらさに向き合う者として—外国人児童生徒の現状の理解』(東京理科大学・清水睦美氏)

・日 時 1/9、2/6、4/9、29、5/8、6/4、7/2、8/20、9/3、10/8、12/3(月) 19:15-21:00

11/24(土)14:00-17:00

全12回

<拡大理論学習会> 10/20(土)14:00-17:00

全1回

・場 所 富士見文化会館

・従事者人員 延べ24人

・対 象 者 教師・教職志望の学生を中心に、広く一般市民 延べ138人

・支 出 額 42,315円

・様子・成果・反省・課題 今年度は新たな試みとして、学級集団調査分析を行った。参加者からは、「子どもの生活アンケートから実態がわかり、学級経営をする上での課題が明確になった。」「同時に行った学力調査の結果から、子どもたちがどこで躓いているのかがわかり、その後の授業実践に活かすことができた。」と報告を受けた。

年間で4回の講演会を行った。からだの働きやネットの現状など子どもたちに直接関するもの、教授法など授業に関するものなど、様々なテーマを扱った。

11月に拡大理論学習会を開催した。これは、大和を中心に活動する団体として、外国人のことについて考えることは不可欠ということで行った。次年度以降は、年間の中に組み込んでいく。

2回土曜日の開催を行ったが、夜の開催ではなかなか来ることができない方が参加できた一方で、部活を持つ中学校の先生などは、来るのが難しいということもあった。月曜日開催を原則としていきたい。

引き続き、小中学校へのメール配信・チラシ配布を続ける一方で、若手教員に限らず、様々な先生方に、直接声をかけ、参加者を増やしていく。

②小5・6教室

・内 容 教員が外国人の小学校5・6年生を対象に月2回の授業を実施した。高学年の外国人の子どもたちが抱える課題に向き合うことで、教員の実践力向上を図った。また、教室に参加する子どもたちが、安心して中学校にむかえるように、基礎学力を身に付け、集団の中での横のつながりを意識した授業を、年間を通して組み立てた。

- 1月 冬休みの宿題、小学校の総復習
- 2月 中学校に向けて、小学校の総復習
- 3月 卒業式の計画、卒業式
- 4月 オリエンテーション、算数－図形
- 5月 算数－足し算・引き算の文章題の解き方、かけ算の立式
- 6月 5月の復習、国語－受け身の文章
- 7月 社会－地図を読もう、豊かさとは何だろう
- 8月 家庭科－調理で使う単語、調理実習計画、調理「ごはんのおかずになるもの」
- 9月 音楽－平石孝太先生(大和中学校)の授業、世界の音楽と楽器でリズム遊び
- 10月 国語－詩にタイトルをつけよう、様子と感じたことを分けて文章を書こう
- 11月 算数－かけ算
- 12月 算数－かけ算、わり算

・日 時 1/7,14,2/11,25,3/10,17,4/7,21,5/12,19,6/2,16,7/7,21,8/18,25,9/8,22,10/6,20,
11/3,17,12/1,15 土曜日 17:30-19:00 全 24 回

・場 所 渋谷中学校開放

・従事者人員 延べ 45 人

・対 象 者 外国人の小学校4, 5, 6 年生 延べ 59 人

・支 出 額 18, 379円

・様子・成果・反省・課題 今年度は、来ている子どものニーズに寄り添って授業をつくった。それによって、丁寧に継続して子どもをみることができた。安定した学びの空間になっていたと思う。高学年の教室だが、友達を誘ってくる流れで、4年生の参加があった。今年は、参加メンバーの関係性を大切にしたいとのことから、4年生の参加も可にしたという経緯がある。4月当初から比べると、いつも立ち歩いて落ち着かない子が、一番学習が厳しい子に対して、答えが出るのを待ったり、教えようとしてみたり、子どもの中でも関係ができてきている。

5, 6年の教科学習の補習のみにならないように、担当者だけでなく多くの人の考えを取り入れながら、外国人のニーズを考え授業を行っていきたいと考えていたが、実際は、教科の補習の部分が大きかった。担当者の中では指導法や授業内容について、来ている子どもを軸に話し合う機会が増えてきた。学校での様子と教室での様子が違うことや、子どもが学校で置かれている位置やその背景なども踏まえ、外国人、教師、学校という枠をどう捉え、教室をどう展開していくかと考えながらの運営だった

③教育講演会

・内 容 講演会を開催し、現在の若者の実相をどう理解すればよいのか、時代を担う若い先生方を中心に、市民を交えて考えあう機会を作った。また、著作の読み合わせの事前学習会や、次年度講演会の講師の選定を行った。

<講演会>「親密性と排除・・・子ども社会と子どもを取りまく社会」

(講師:筑波大学准教授・土井隆義先生)

※後援:大和市教育委員会

<事前学習会>土井先生の著書『友だち地獄』の読み合わせ

・日 時 <講演会> 2/18(土) 13:40-16:30 全1回

<事前学習会> 2/6(月) 19:15-21:00 全1回

・場 所 <講演会>渋谷学習センター 多目的ホール <事前学習会>富士見文化会館

・従事者人員 延べ15人

・対象者 <講演会> 教師・教職志望者・市民 延べ38人

<事前学習会> 教師 5人

・支出額 145,269円

・様子・成果・反省・課題 ますます見えにくくなる若者世代の実相を、閉塞的な社会状況を背景に理解することができた。「不満」の時代から「不安」の時代へと移る中での、教育現場での子どもたちの様子などがパネルディスカッションでは語られた。土井先生により整理され、提示された問題は、読書会で読み合わせた著作の先の研究成果であり、大変興味深いものであった。今回は事前準備として、講演の打ち合わせのために筑波大学に3名がお邪魔し、しっかりとした講演準備ができたことが、大きな成果につながった。教育講演会後の、調理室を借りての交流会にも講師が参加して下さり、懇親を深めることもできた。毎年すばらしい講師による講演会が開催できているので、参加者をより増やしていくことが課題である。

④教師相談

・内 容 さまざまな課題を持つ児童が、クラスの中できちんと位置づくような授業はどうすれば可能なのか、指導方法、指導形態、教材内容などを研究しあい、生き生きとした授業を創造できるように相談会を行った。また、随時教師からの相談に応じた。

<相談会>

・学年を始めるにあたって不安なこと、教師の役割、最初に子どもたちに何を話すのか

・児童との初めての出会い、学級運営の基本方針

・約1ヵ月過ぎて困っていること、各学年の学習について、

中学校の社会科を進めるにあたって注意すること(光丘中学校・神戸芳子先生)

・若い先生の悩みにどうこたえるか、納得のいく学級運営をするには

<随時対応>

・職場復帰した人の相談と5年生の理科の進め方について

・理科実験の進め方

・日 時

<相談会> 3/31(土) 16:00-20:00、4/8(日) 13:00-17:00、28(土) 14:00-18:00、12/20(木) 19:00-
全4回

<随時対応> 11/9(金) 17:30-、16(金) 15:30- 全2回

・場 所 富士見文化会館、北大和小学校、喫茶店

・従事者人員 延べ6人

・対象者 小・中学校教諭 延べ51人

・支出額 17,400円

・様子・成果・反省・課題 今年度は、相談を待つのではなく、こちらから想定される課題にあった研

修を組織することを目標に掲げたが、4月に行った学習計画の立て方について以外は、あまりできなかった。年度初めの研修は、若い先生方が多数集まり、低中高学年ブロック毎に討論の場を設定できたので好評であった。今後も続けると良いと思う。

従来通りの、教育現場での悩みの相談は、件数自体は多くなかったが、適宜応じることができたので良かった。ただ、人数が少ないときは、事務所や喫茶店などでできるが、4人以上の時に集中できる場所の確保が必要だと感じた。

イ 学校支援部

①研究者による支援

- ・内 容 学習状況調査の実施・分析の支援を行った。
- ・日 時 4/9(月)19:15-21:00、4/29(日)14:00-20:00、6/4(月)19:15-21:00 全3回
- ・場 所 富士見文化会館
- ・従事者人員 延べ3名
- ・対 象 者 理論学習会参加教員 延べ31名
- ・支 出 額 3,900円
- ・様子・成果・反省・課題 理論学習会より「子どもの生活実態調査」の依頼があり、調査の実施、調査結果の集計、分析結果の提示を行った。

②教育ボランティア

- ・内 容 要請に応じて、学校や教師の支援を行った。2012年度は、中学校3校より外国人生徒の支援の要請を受け対応した。新規の要請については、活動報告会にて組織的に検討を行い対応した。
大和市立引地台中学校—「放課後教室」における外国人生徒支援(前年度より継続)
横浜市立南瀬谷中学校—外国人編入生への入り込み支援と日本語学習支援(新規)
京都市立神川中学校—外国人生徒の学習と支援体制へのアドバイス(新規)
- ・日 時
＜引地台中＞ 1/12,26,2/2,16,2/3,3/1,15,18,4/19,26,5/10,24,31,6/7,21,7/5,12,8/23,9/6,10/18,25,
11/8,29,12/13,20(木)15:30-17:30 全25回
＜南瀬谷中＞ 3/16(金),26(月),27(火),4/6(金),11(木),17(火),20(金),25(水)
5/2(木),10(水),17(木),30(水) 全12回
＜神川中＞ 7/19(金)11:00-17:00,10/26(金)13:00-15:00 全2回
- ・場 所 大和市立引地台中学校、横浜市立南瀬谷中学校、京都市立神川中学校
- ・従事者人員 延べ45人
- ・対 象 者 学校3校 子ども延べ70人
- ・支 出 額 45,034円
- ・様子・成果・反省・課題 引地台中学校については、昨年度からの継続で放課後教室での外国人生徒の居場所作り支援を行った。引地台中の外国人生徒支援は2011年度から継続しており、校内に外国人生徒の課題が立ち上がると共に、当事者団体「すたんどばいみー」と繋げる事も出来たのは成果であった。4月以降、放課後教室には外国人生徒の参加が減ったため、特に気になっていた2、3学年在籍の外国人生徒対象の学習教室「柳橋教室(仮)」を立ち上げた。
南瀬谷中学校については、台湾から4月に転入した生徒の入り込みによる支援を行った。最初は全

く日本語が分からなかったものの、日本語の習得も早く、積極的な生徒だったため、入り込み回数は徐々に減らし、5月で支援は終了、その後は要請があれば対応する事で学校と確認した。保護者も日本語堪能で情報も持っていたため、短期の支援は妥当だったと考える。支援を通じて、担任が日本語が分からない外国人に対して授業や取り組みで出来る事を考えていくようになったことは成果である。

神川中学校については、ベトナム人生徒の学習に関する学校からの相談に対応した。授業参観と、通訳を交えて本人との面談を行い、学校側に学習や対応についてのアドバイスと、教材の提供を行った。周りが日本人ばかりという環境の中で、セミリングル状態であることの困難について学校と話し、学校側で体制を整えるということで確認した。10月には、その後の様子を知るために再度学校訪問し、授業参観と面談を行った。学校が遠いこともあって継続的な支援が出来ない事は解消できない課題であった。ただ、一人の外国人生徒に対して複数の教職員で体制を考えようとする学校の姿勢は、これまで大和市で対応した事例が「担任が丸抱え」でありがちなのと対照的であり、教師に対してEd.ベンチャーが蓄積した外国人生徒の学習支援の知見を提示することだけでも意味はあったと考える。また、通訳として同行した「すたんどばいみー」メンバーは、日本の学校の中で生きる他の外国人として当該生徒の前に提示できたため、存在として意味があった。

③ホームページ支援

- ・内 容 Ed.ベンチャーホームページのリニューアルと、「すたんどばいみー」サイトの立ち上げ支援を行った。
- ・日 時 2/17(金)15:30-17:30,3/13(火)10:30-17:00,26(水)10:30-13:00 全3回
- ・場 所 当法人事務所
- ・従事者人員 延べ5人
- ・対 象 者 当法人、すたんどばいみー 延べ5人
- ・支 出 額 0円
- ・様子・成果・反省・課題 Ed.ベンチャーホームページのリニューアルと、「すたんどばいみー」サイトの立ち上げのための打合せと作業を3回行ったが、年度内に完成させることは出来なかった。また、本活動は当初は学校のホームページ構築の支援を行う事を想定していたが、2012年度も含めここ数年学校からの依頼はない状態が続いている。そのため、次年度はこの活動は学校支援事業から外し、Ed.ベンチャーの事務局の中でホームページ担当を担っていくことにする。

(2) 外国人支援事業

ア 大人支援部

① 生活相談

- ・内 容 外国人の方の相談に応じた。
- ・日 時 <定期相談> 1/8,15,22,29,2/5,12,19,26,3/4,11/18,25,4/1,8,15,22,5/6,13,20,27,6/3,10,17,24,7/1,15,22,29,8/5,19,26,9/2,9,16,23,10/7,14,21,28,11/4,11,18,25,12/2,23(日)11:00-13:00 全45回
- <個別相談> 1/6,14,17,2/1,11,13,17,29,3/7,13,22,26,27,29,4/5,12,16,24,5/6,22,31,6/18,25,7/2,4,6/5,12,7/6,9,14,8/1,3,9,22,9/3,11,14,21,25,28,29,10/5,9,11,16,27,11/5,13,17,30,12/2,5,10,17,22,29 時間は適宜 全57回
- ・場 所 <定期相談> 渋谷中学校開放

<個別対応> 病院、税務署、福祉事務所、市役所、入管、警察、拘置支所、社会保険事務所、
相談者自宅、健康診断会場

- ・従事者人員 延べ 103 人
- ・対象者 外国人 延べ 104 人
- ・支出額 45,320円
- ・様子・成果・反省・課題 助成金申請は残念ながら通らず、通訳等の予算を立てることができなかった。相談員の活動実費は年間どのくらいになるのか活動費として計上し、請求を行った。結果4万4~5千円くらいになった。Ed.ベンチャーの活動は、考えとして、資金のある人は資力で、時間のある人はボランティアで協力している。今後は、相談日、打合せ日は除き、付添などの実費のみで報告・請求する旨話し合った。今後、相談内容によって、入院治療、手術を受けることが予定されるので、通訳が重要になり、必要な時に通訳が確保できない課題として挙げた。また、ホームレス3人の内、2人が収監されているが、出所までに面会に行き、出所後の相談を予定。1人は前橋刑務所と遠距離なので相談員2人での対応を決める。他の1人は場所が分からず葉書で探し出す方法を考える。

②お父さんとお母さんのための日本語教室

- ・内 容 日本語に親しむことから基本的な学習を中心に行ってきた。特に日本語の基礎をもとにスピーチ大会を開催した。原稿作りから発表までの過程を通して、書く・読む・話す・聞くの学習に取り組んだ。
- ・日 時 1/9,16,23,30,2/6,13,20,27,3/6,13,20,27,4/3,10,17,24,5/8,15,22,29,6/5,12,19,26,
7/3,10,17,24,31,8/7,21,28,9/4,11,18,25,10/2,16,23,30,11/6,13,20,27,12/4,11,18(日)10:00~12:00
全 47 回
- ・場 所 渋谷中学校開放
- ・従事者人員 延べ 154 人
- ・対象者 外国人 延べ 450 人
- ・支出額 23,910円
- ・様子・成果・反省・課題 テキストを中心に、その時々ので出来事を授業に取り入れて学習してきたが、スピーチ大会は一人一人にとって少しずつではあっても力をつける機会となったようだ。ただ、原稿作りの過程で、指導する側のアドバイスにも考慮の余地があり、あまりに丁寧すぎて当の学習者が読んでみると内容が理解できない面があり、今後の課題となった。

イ 子ども支援部

①保証人事業

- ・内 容 外部の奨学金を受ける際に、保証人を用意できない外国人の学生に対し、「保証人グループ」を構成して保証人を引き受けた。依頼があった場合は、依頼者と「保証人グループ」が面談し、協議の上保証人を決定する。
- ・日 時 <報告会>1/28(土) 14:00-19:00(基金の会報告会と合同開催),
7/12(木)18:30-19:00 全 2 回
<保証人グループ会議>1/26,2/9(木),3/5(月) 19:00-21:00(基金の会常任委員会と合同開催)
全 3 回
<個別面談> 4/6,7,5/6,7,6/6,7,7/6,8/6,9/6,10/6,11/6,12/6 21:30-23:00(基金の会と合同対応)

全 12 回

- ・場 所 富士見文化会館、渋谷中学校開放、当法人事務所
- ・従事者人員 保証人グループメンバー9人 延べ 75 人
- ・対 象 者 3名(高校奨学金2名、日本学生支援機構1名) 延べ 20 人
- ・支出見込額 4,245円
- ・様子・成果・反省・課題 今年度新規依頼者はいなかった。

今年度から報告会は年2回とした。保証対象者となった学生と保証人グループが直接会うことで、保証対象者の現状を確認することができ、対象者も自分の生活を見直す機会を持つことができた。

1名については、月1回面談を行い、返金、保証金の受け取り、通帳確認、生活状況の聞き取りを行っている。

来年度も2度の報告会と、1名の月1回の面談を行っていききたい。

②すたんどばいみー基金の会

- ・内 容 「すたんどばいみー」など当事者団体で活動する大学生及び大学院生に対して、大学に関わる費用の貸与に関する業務を行った。
- ・日 時 <2011年度報告会> 1/28(土) 14:00-19:00 全1回
<常任委員会> 1/26,2/9(木),3/5(月) 19:00-21:00 全3回
<個別面談> 4/6,7,5/6,7,6/6,7,7/6,8/6,9/6,10/6,11/6,12/6 21:30-23:00(保証人事業と合同対応) 全12回

- ・場 所 <報告会> 渋谷中学校開放 <常任委員会> 富士見文化会館
<個別面談> 当法人事務所

- ・従事者人員 常任委員 12人(担当者2名含む) 延べ 75 人
- ・対 象 者 貸与者 6名 延べ 24 人
- ・支 出 額 16,580円

- ・様子・成果・反省・課題 2011年報告会(2012年1月28日実施)は、すたんどばいみーの小学生教室の参観をあわせた報告会を行った。すたんどばいみーの活動を参観することとあわせて、すたんどばいみーからの作文発表が行われた(参加者26名、すたんどばいみー10名)。

基金貸与者1名の生活状況の悪化に関わり、3回の常任委員会(1/26・2/9・3/5)を行い、今後の支援の検討を行った。結果、基金の会の支援者からは外し、保証人事業の一環で継続的に関わり、生活の立て直し・奨学金および基金の返済をサポートすることとなった。

2012年の通常基金業務は、新規貸与はなく、3名からの返金が継続的に行われ、1名は完済となった。寄付・積み立てでは新規2名が支援者に加わった。2012期末処理で、支援者1名より5口の返金依頼があり返金を行った。

③エステレージャ・ハッピー

- ・内 容 外国人児童生徒を対象とした学習支援を行った。大和教室、厚木教室(Kokusai B.G.)の他、5月より引地台中学校在籍の外国人生徒対象に柳橋教室を開催した。
- ・日 時 <大和教室> 1/7,14,21,28,2/4,11,25,3/3,10,17,24,31,4/7,14,21,28,5/6,12,19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,14,21,28,8/18,25,9/1,8,15,29,10/6,13,20,27,11/3,10,17,24,12/1,8,15,22(土) 10:00-12:00 全 47 回

<厚木教室(KokusaiB.G.)> 1/7,11,14,18,21,25,28,2/1,8,15,29,3/3,5,6,7,14,17,21,24,28,29,31,
4/4,7,11,14,18,25,28,5/2,5,9,12,16,19,23,26,30,6/2,6,9,13,16,20,23,27,30,7/4,7,11,14,18,21,25,28,
8/1,18,22,25,9/5,8,12,15,19,26,10/6,10,17,20,24,31,11/7,10,14,21,24,28,12/1,5,12,22,26,28
(水・土) 14:30-17:00 全 83 回

<柳橋教室>5/22,29,6/5,12,19,26,7/3,10,24,31,8/7,21,28(火)
16:30-18:00(夏季休業中 10:00-12:00)
9/5,12,29,26,10/3,10,17,24,31, 11/7,14,21,28,12/5,12,19(水) 18:00-20:30 全 29 回

- ・場 所 <大和教室> 林間小学校開放、富士見文化会館
<厚木教室(KokusaiB.G.)> 厚木市ヤングコミュニティーセンター、あつぎパートナーセンター
<柳橋教室>コミュニティセンター柳橋会館
- ・従事者人員 <大和教室> 延べ 325 人 <厚木教室(KokusaiB.G.)> 延べ 147 人
<柳橋教室> 延べ 38 人
- ・対 象 者 <大和教室> 大和市、綾瀬市、座間市在住の外国人の就学前～高校生 延べ 770 人
<厚木教室> 厚木市、愛川町在住の外国人の小中学生 延べ 158 人
<柳橋教室> 大和市在住の外国人小中学生 延べ 53 人
- ・支 出 額 420,041円
- ・様子・成果・反省・課題 <大和教室> 生徒は、大和市中部に在住する外国人の子どもたちを中心に、綾瀬市、座間市から参加する子どもも受け入れた。2012 年度は、就学前幼児の参加も多かったため、就学前幼児クラスを設けた。常時 10～20 名の参加があり、多いときには 30 人が集まるときもあった。子どもたちの出身国は、ペルー、パラグアイ、ドミニカ、ブラジルなど南米系と、フィリピン。スタッフは毎回 10 人前後確保しているが、常時スタッフ不足の状態であった。
就学前幼児は、遊びながらもの名前や動作の言葉などを学習。保育園や幼稚園に行っていない子どもは体験自体が少なく語彙が圧倒的に少ない。小学生は、基本的な読み書き計算は出来ても文章になると理解が難しい。問題なく自習に取り組んでいると思っていた子が個別に見ると音読が苦手だったり、内容が全く分かっていないことが明らかになった。中学生は部活動があるため、テスト前に参加が多くなる。学習意欲はあるもののテストの点に結びつかない。先生や学校の愚痴を言ったりしている。
小学生のうち、特に6年生は、学校や家庭で抱える課題を反映してか、教室の中で自分の位置取りをめぐってケンカになったりする場面があった。学習はもちろん、特に小学校高学年から中学校までは学校や家庭の様子を聞くため個別対応が出来る事が望ましいが、常時スタッフ不足の状態では十分ではなかった。スタッフは毎回来られる者ばかりではないので、結果として、課題を継続して引き継げず、週 1 回その場その場の対応になりがちであった。6 年生は、同じ中学校に進級する子どももおり、中学校生活の中で「あいつならわかってくれる」関係性をつくっておく必要があり、そのためには、「塾」「日本人が見てくれる教室」という子どもたちの教室に対する認識を「外国人が集まってくる教室」という認識に転換するための取り組み、隣の子どものことも理解しながら自分の現状を整理していくような取り組みが必要となっている。子どもたちの課題を踏まえ、次年度は組織を見直す必要がある。
また、4月の教室説明会の際には、遠足の予定も話し合ったが実現できなかった。これは、スタッフミーティングで議題にあがらず、イベントを計画する主体が誰もいなかったことが原因であった。さらに、教室に生徒を紹介してくれる通訳さんが、時折参加して親の相談への対応や、通訳をしてくれて大変助かったが、子どもを連れてくる親たちもそれぞれ心配や不安を抱えているので、親の日本語教室や料理教室をやってはどうかという提案を受けたが、実現できなかった。こちらも組織を見直し、子どもたちの

課題を整理した上で有効なイベントを考える必要がある。

<厚木教室 Kokusai B.G.>厚木在住のフィリピン人小中学生と高校生、愛川町の幼児と小学生が参加。愛川町の子どもは、親の仕事の都合で秋以降不参加。スタッフは各回1~2名で対応。2, 3月に2名が高校受験を行い、一人は定時制、一人は通信制高校に合格、4月以降は、フィリピン人の定時制高校生2名(男女)、通信制高校生1名(女子)が継続的に参加。

ほぼ高校生の教室となっているが、それぞれ学習意欲は高いものの、日本語や学習理解が追いつかないため苦しんでいる状況。また、特に女子は働く母親の代わりに家事を一手に引き受けていることから、家で学習できるという環境にはないのに加え、母国親族や在日のフィリピン人との繋がりが強く、自分のことよりもフィリピン人コミュニティの事情に左右される状況があり、日本にいながら日本とフィリピンの間を行ったり来たりしている様にも見える。また、活動範囲が学校、家、フィリピン人コミュニティという狭い範囲に限られ、学校がうまくいかなくなると更に活動の幅は狭まり、日本語の運用力も低下が見られる。学校の学習だけではなく、フィリピンの学習、生活上で使う日本語の語彙や会話の学習なども取り入れたが、「学校の学習についていくため」の学習で教室の時間が割かれることが多く、十分に行うことは出来なかった。

<柳橋教室>引地台中学校における「放課後教室」にやってきた外国人生徒に対する支援事業として開始したが、1名以外の参加がなかなか実現できなかった。この1名の生徒は、コンスタントに教室に出席し、宿題等の課題を見てあげることができた。また、進路に対する疑問、学校における人間関係などの不安を聞くことができた。後期以降、フィリピン人の小学生姉弟の参加が見られた。中学生の兄も誘いたかったが、叶わなかった(部活動による)。次年度は、組織的位置づけを考える必要がある。

④ 当事者活動支援

- ・内 容 「すたんどばいみー」をはじめとする、外国人青少年当事者による活動に対して、活動費の補助、助言、協力を行った。今年も、「すたんどばいみー」に対し、やまと市民祭りの出店協力、活動費(印刷費)の助成を行った。
- ・日 時 やまと市民祭り 5/12(土),13(日),他随時
- ・場 所 引地台公園,他随時
- ・従事者人員 3人
- ・対 象 者 すたんどばいみー 1団体
- ・支 出 額 60,810円
- ・様子・成果・反省・課題 議案書末参考資料①「すたんどばいみー2012年報告」を参照。

(3) 学校及び外国人支援に関する普及啓発事業

- ・内 容 当法人の周知及び学校支援、外国人支援の必要性を広く市民に呼び掛けるため、パンフレット、会報、講演録を作成し、配布した。また、講演会や理論学習会の参考文献を購入し配布した。随時HPの更新を行った。
- ・日 時 <パンフレット>作成・配布:3月 <会報>作成・配布:1月・7月
<講演録>作成・配布:3月 <参考文献配布>2月、10月 <HP更新>随時
- ・場 所 総会・講演会会場(渋谷学習センター)、理論学習会会場(富士見文化会館)、
当法人事務所
- ・従事者人員 3人

- ・対 象 者 会員及び配布希望者
 <パンフレット>200部 <会報>各130部 <講演録>各20部 <参考文献>30部
- ・支 出 額 87,856円
- ・様子・成果・反省・課題 パンフレットの印刷、会報の発行は予定通り行われた。講演録の作成は遅れがちであったのが反省である。HPは、事業の増加などを踏まえ、トップページや事業ごとのページを分かりやすくするために、夏を目処に大幅改訂を予定していたが作業が滞り、現状は現行のHPを随時更新しているのみとなっている。新たにHPデザインを担当してくれる人への依頼が必要な状況となっている。

(4) 法人の事業円滑実施のための活動

- ・内 容 法人の活動を円滑に遂行するため、事務局の運営、活動報告会開催を行う。
 - ①事務局の活動:外部からの問い合わせや依頼に対する対応、各活動の掌握、活動相互の連携補助、スタッフブログの更新、法人の出納に関すること、資料整理、活動報告会の設定、会員管理
 - ②活動報告会の開催:各活動の報告、活動間の連携に関する事項や活動推進上の諸問題解決に関する事項、総会に付議する事項を検討。
 - ③総会の開催
- ・日 時
 - ①事務局:原則平日 10:00-18:00
 - ②活動報告会:1/12,2/9,3/15,5/17,7/12,9/20,11/22(木)19:00-21:00
 12/23(日)13:00-17:00 全8回
 - ③総会:2/18(土)11:00-12:00 全1回
- ・場 所
 - ①事務局:当法人事務所 ②活動報告会:富士見文化会館、渋谷中学校開放
 - ③総会:渋谷学習センター
- ・従事者人員
 - ①事務局:事務局員及び事務局ボランティア3人
 - ②活動報告会:理事25人
 - ③総会:正会員:54人
- ・支 出 額 745,198円

- ・様子・成果・反省・課題 事務局の体制については、定期的に事務局に駐在できるスタッフのおかげで、事務局が不在になることが少なくなった。事務局に日常の経理作業ができるものを置かなかったため、会計担当者に負担がかかったことは前年度からの継続的な課題となった。活動報告会においては、2012年度より石巻市における子ども支援活動「ライオン学校」が立ち上がり、当法人が活動費の一部を支援することになったため、報告会にて「ライオン学校」の報告も行ってもらった。また、当事者団体「すたんどばいみー」、当法人の生活相談活動からは毎回活動報告をお願いし、外国人の日常の問題を知る機会となった。

(5) 特別会計事業

<東日本大震災支援事業>

- ・内 容 ①陸前高田の支援に関しては、2011年に立ち上がった、現地の教育支援チーム「まつ」を継続的に支援した。特に今年度は、活動拠点としての『Cafe まつぼっくり』をオープンした。今後は、先生方のふれあいの場としての利用や、図書や教材の整備によって、教材研究の場を提供するなどの幅広い取り組みが計画されている。

「まつ」の依頼により、小友中学校の学習補充の支援にも協力した(8月)。

また、小友中学校と下福田中学校、すたんどばいみーの三者交流会を8月30、31日に開催した。小友中学校に同行し、交流会全体をコーディネートすると共に、寄付による資金調達や、交流会記録誌の発行などの活動をおこなった。

②石巻市万石浦子ども支援に関しては、東京理科大生スタッフを核にして継続した。課題を抱える子どもそれぞれへの具体的な働きかけをおこなった。たとえば家庭訪問や、生活を共にしての活動などである。神戸定住外国人支援センター(KFC)との連携によって、8月には、「ライオン学校伊豆学習旅行」を実施し、子どもたちだけでなく、保護者も視野に入れた支援活動を行った。保護者を中心とした「現地支援組織」の立ち上げに現在は取り組んでいる。

③富岡町の学校支援に関しては、1月に鉄琴、2月に習字セット、4月にミシンといった教材や教具を支援した。

なお、会計については、2012年度も「特別会計」事業として展開した。

- ・日 時 ①<陸前高田市>1/9,10,11,14,15,31,2/4,5,21,25,26,3/2,3,4,7,8,22,23,4/12,13,14,5/11,12,13,18,19,20,21,22,6/9,10,13,14,15,7/23,24,25,8/20,21,28,29,30,31,9/1,11,12,13,14,16,17,23,24,10/11,12,13,14,11/1,2,3,12/8,9 全61日
- ②<石巻市>1/7,8,2/7,8,24,25,26,3/24,25,5/4,8/2,3,4,5,6,9/15,16 全17日
- ③<富岡町>1/31,3/7,4/14, 全3日 <大熊町>2/3 全1日

・場 所 岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、福島県富岡町立小中学校、福島県大熊町

・従事者人員 延べ 172人

・対 象 者

<陸前高田市>陸前高田市立小友、広田、気仙、米崎小中学校、教育支援チーム「まつ」8校1団体

<石巻市>万石浦地区の子ども 約20人

<富岡町>富岡町立小中学校 4校 <大熊町>大熊町立中学校 1校

・支 出 額 8,519,567円

・様子・成果・反省・課題 事業計画では、石巻支援に関しては3月での一区切りを考えていたが、子どもたちの様子から、支援を打ち切ることの難しさを感じ、東京理科大生のスタッフを中心に支援を継続した。徐々に成長していく子どもたちの姿に触れながらも、一方では、課題を抱え、出口が見つからない子どもも複数いるのが現状である。週休日の支援や旅行のイベントなどで、全員の子どもの対象とする活動を続ける一方、課題の子どもへの特定のアプローチも試みた。はっきりとした成果が目に見えるように現れる支援ではないが、ライオン学校の子どもたちがますます落ち着いて成長する姿が感じ取れる。また、家庭訪問や学習旅行をきっかけに、保護者とのつながりがより深くなりつつある。

陸前高田の教育支援チーム「まつ」は、その活動拠点を持つことで、多くの可能性をひきよせた。中学校の統合を前に、先生や子どもたちの支援の準備が整ったと言える。これからの活動をしっかりと支えていくことが求められている。また、小友中、下福田中、すたんどばいみーの三者交流は、震災そのものが忘れられる社会的動向の中で、子どもたち同士が「弱者と強者」の立場を超えつつ出会い直すという、重要なテーマに取り組めた。マイノリティとしてのことばを蓄積してきたすたんどばいみーの存在も大きな役割を果たした。

<すたんどばいみー基金>

・内 容 「すたんどばいみー」など当事者団体で活動する大学生及び大学院生に対して、大学に

関わる費用の貸与を行った。

・従事者人員 常任委員12人(担当者2人含む)

・対象者 貸与者 6名

・貸与額 6,480,000円(2012年末)

・様子・成果・反省・課題 2012年の通常基金業務は、新規貸与はなく、3名からの返金が継続的に行われ、1名は完済となった。寄付・積み立てでは新規2名が支援者に加わった。2012 期末処理で、支援者1名より5口の返金依頼があり返金を行った。

3 その他

■ホームレス支援のその後

2010 年度より始まった3人のベトナム人ホームレスへの支援については、当法人の外部に「連帯保証人グループ」で住居賃貸契約を引き受けるとともに、生活上の相談については当法人の生活相談活動で対応を行ってきた。現在、2011年に1人、2012年に1人が実刑を受け服役中であり、この二人については賃貸契約を解約する手続きを行った。残る一人について、住居の保証人と、生活相談を継続している状態であるが、この一人も逮捕拘留を複数回繰り返している。

いずれもホームレス状態から、人間としての生活上最低限保障されるべき「住居」の確保、そのための最低限の生活費としての生活保護受給の支援が出発点であった。金銭管理や求職に付き添うも、ハローワークに行っても仕事が見つからない、見つからないから毎日することがない、という中で、ベトナム人コミュニティの中の犯罪に取り込まれていったようである。当法人の外部ではあるが住居保障の仕組みは作ったものの、その後の自立生活に向けた支援は、実際に自活まで結びつかず、対処療法的であったことは否めない。

現在残っている一人については、2012 年度中は怪我や病気で通院や入院があり、逮捕拘留もあり、年末まで安定して求職活動ができる状況ではなかったが、年明け当面治療は終了するので、就職支援を継続的に行っていきたい。

また、服役中の2人については、両者とも次年度7月に刑期を終え出所する予定である。再び路上生活に戻らないよう、保証人グループと連携しながら、第一に出所後の住居の保障のため対応を考えていきたい。